

役場業務に 改善運動の導入は？

町長

良好な 職場環境づくりに努める

岡田 聡 議員



職員間でコミュニケーションを

【岡田】 地方を取り巻く状況は、年々厳しくなるが、行財政改革の一環として、業務の改善に取り組み必要がある。

業務の繁閑^{はんかん}によって職員^{しやくいん}の流動的な活用をすべきでは。

【町長】 確定申告の時期には行っているが、各課の業務が専門的であり難しい。

【岡田】 マニュアル化や共有化・簡素化は。

【町長】 事務引き継ぎ書などで行っている。

【岡田】 コスト意識・

省力化は。

【町長】 予算の編成や執行においてコスト削減に努めている。

【岡田】 職員間のコミュニケーション改善は。

【町長】 風通しのよい職場環境が事務の改善や不祥事の撲滅につながるかと考えている。

今後も雰囲気の良い職場づくりに努めたい。

【岡田】 コンビニエンスストアの活用は。

【町長】 コスト的に難しい業務もあるが、検討する。

農業新制度への対応は？

町長

有効に活用したい

【岡田】 地域農業の問題解決に向けて、人・

農地プランや農地中間管理制度が始まった。

しかし、不在地主・違法な貸し借り・さまざまな管理の増大、相続による新たな状況の発生、賦課金の未納などの問題への対応が不十分であると考える。

町としてどうかかわり、対応していくのか。

【町長】 中間管理機構の7月の公募に42人の町内在住者の応募があった。今後は、農地の貸し手から担い手への効果的な農地集積をはかっていく。

町は機構の業務の一部を委託され、貸し手・

借り手農家の調整および書類整備を行う。

地域で話し合いを持つて作成される人・農地プランと連携し、一体的に推進して行く。

【岡田】 経済性、効率

性重視のあまり、農地や水路の保全がおろそかになりはしないか。

【町長】 集落での取り組みを強化するため、国の制度を活用してもらう。



稲の刈られた田んぼ